

囚われた美少女捜査官 かみしろ 神代さくら

THE
COMIC

第4話

成年
コミック

二次元ドリームコミックス

漫画: 助三郎

原作: 筑摩十幸

キャラクター原案: 孤裡精

CONTENTS

003

第4話

038

巻末特典 ifショートストーリー④

(小説：筑摩十幸 挿絵：助三郎)

第4話

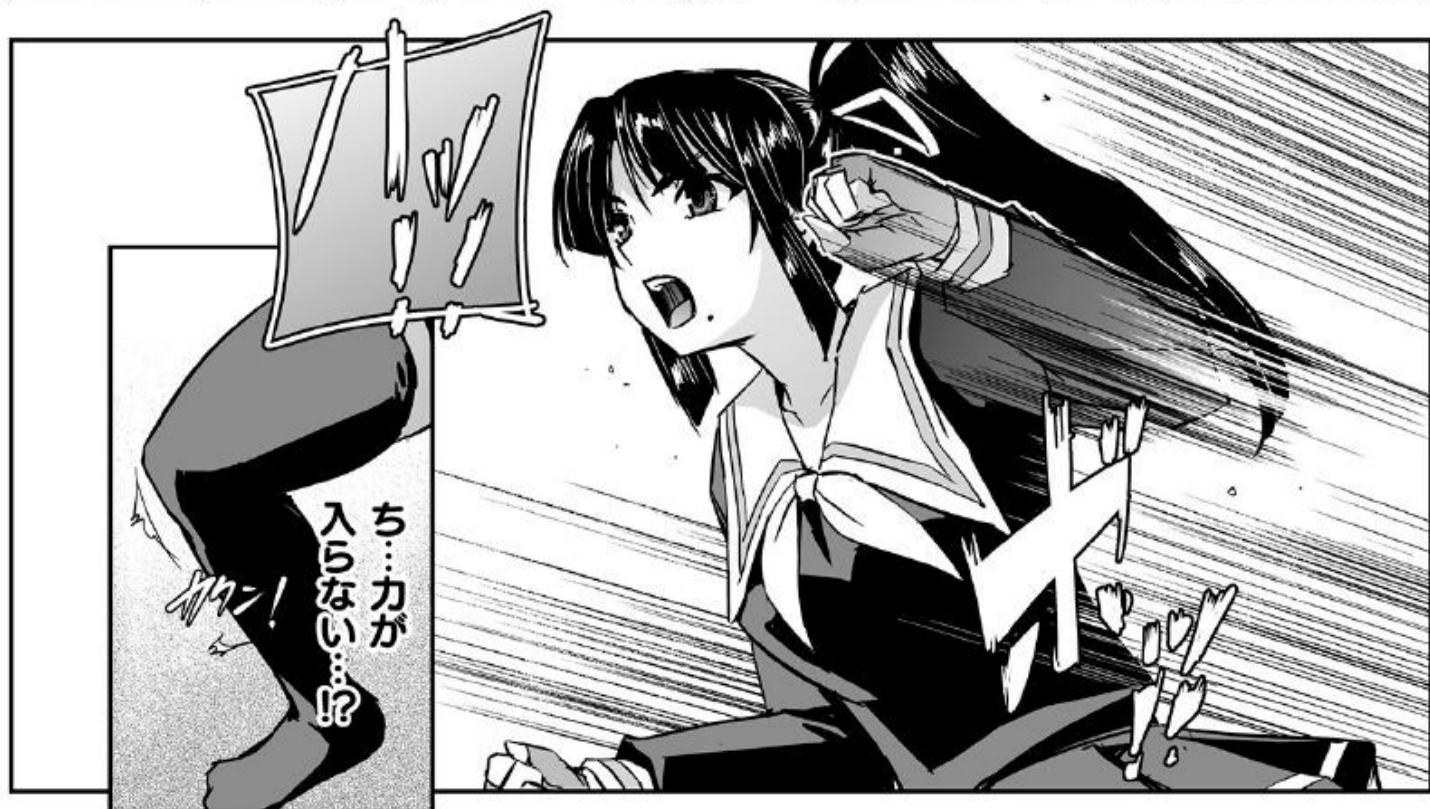


ようやく
起きたみてえ
だな

この部屋は
どろ...?

ガチャ!!





言った通りだろ？
お前は俺にはもう勝てねえ

は……放せ!!

雌の本性……

心の奥底では
俺のチンポが欲しくて
堪らねえのさ

なんて力……振りほどけない!!





だ！駄目え！
力が抜けちゃうう！！

魔薬の所為…？

臭い唾液があ
気持ち悪い！！

嫌ああ！！

ああああ！？

舌で頬の内側をお
敏感なトコロ
舐めないでえ！



き…気持ち悪い
だけよ

あ…頭の奥
痺れちゃう

俺のキスが
随分よかった
ようだな

ハア
ハア
!!
ハア



ヒビ顔とマンコを
蕩けさせてよく言うぜ

あぁ
あぁ
♡

ア
ア
♡

ア
ア
♡

おらおら俺のチンポ
気持ちイイんだろ
イイって言えよ!

誰がそんな
事お



奥イイのお♡
嫌イきだんなるー!

イカされちゃう
イカされちゃうう!!

嫌あ!!

気持ちイイ♡
気持ちイイのお♡







さあ今度は
くち
ロマンコで
愉しませろよ



誰が
そんな...!

え?
何この歯ごたえ!?



ひ嫌ああ!!
喉の奥までええ!!

歯は全部抜歯して
シリコンに改造済み
噛めねえだろ?

アウ!!

な…なんて事…
でも…そうか…

喰いしはれ
ないから先刻の
パンチで力が…

ちげ
違えよ
歯の所為だけであんな
弱いパンチになるかよ

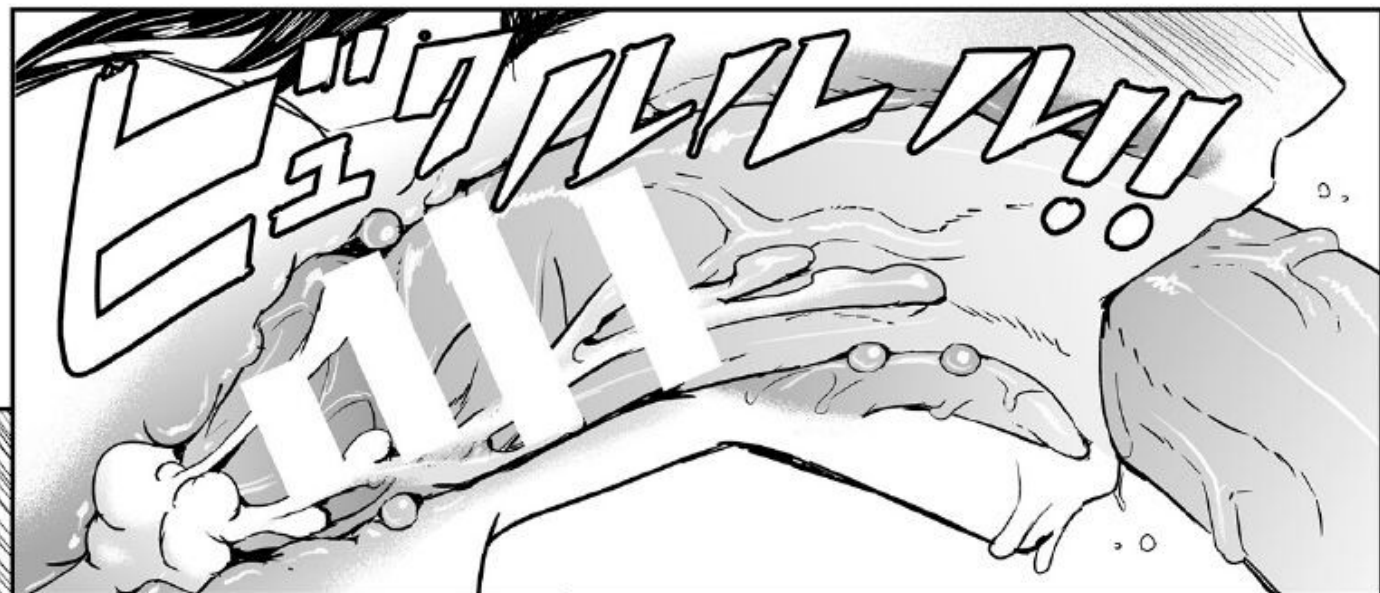
な…なんで私の
きえてる事が…

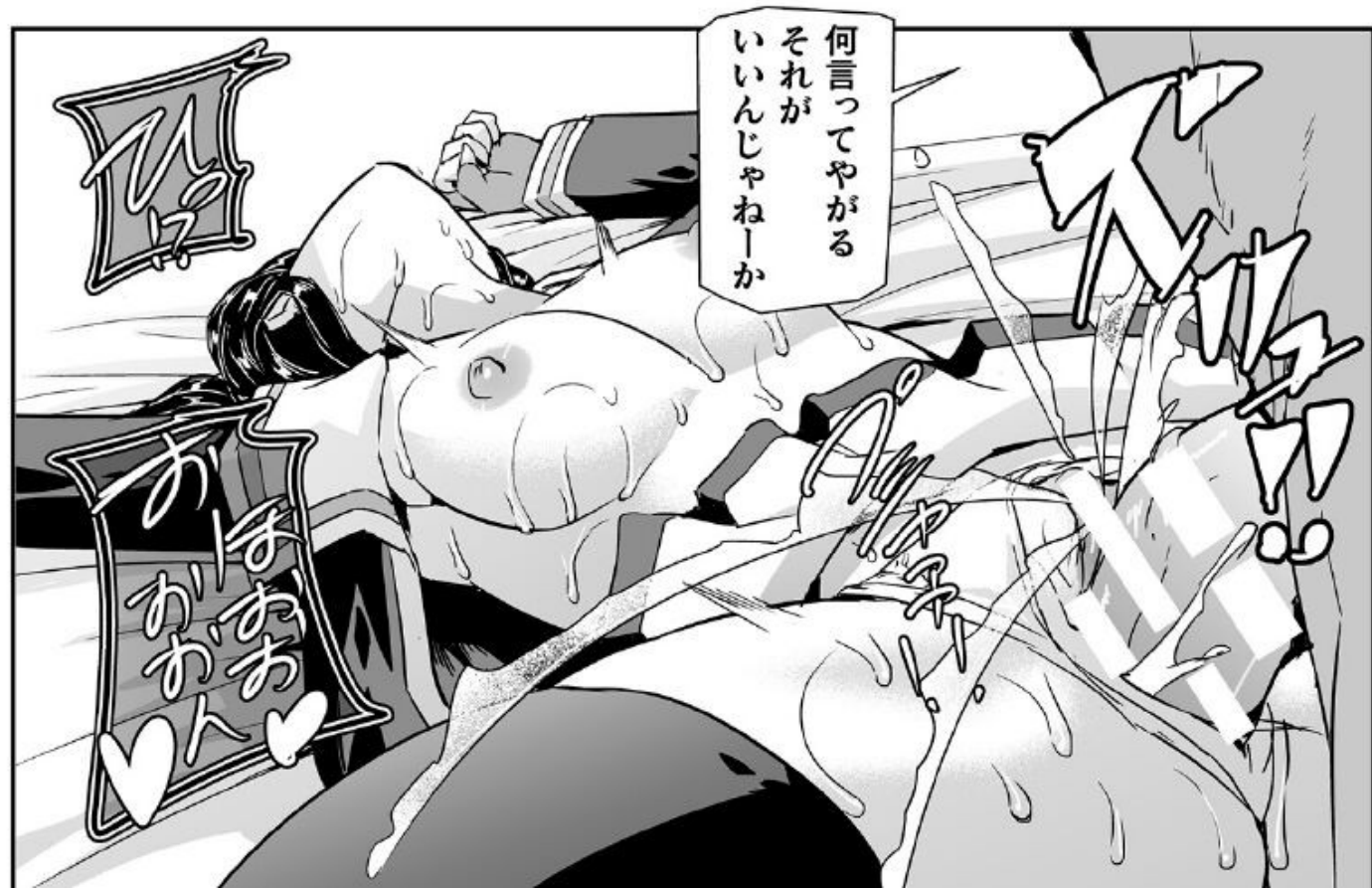
オラオラ
チンポ舐めて
濡れてるじゃねーか

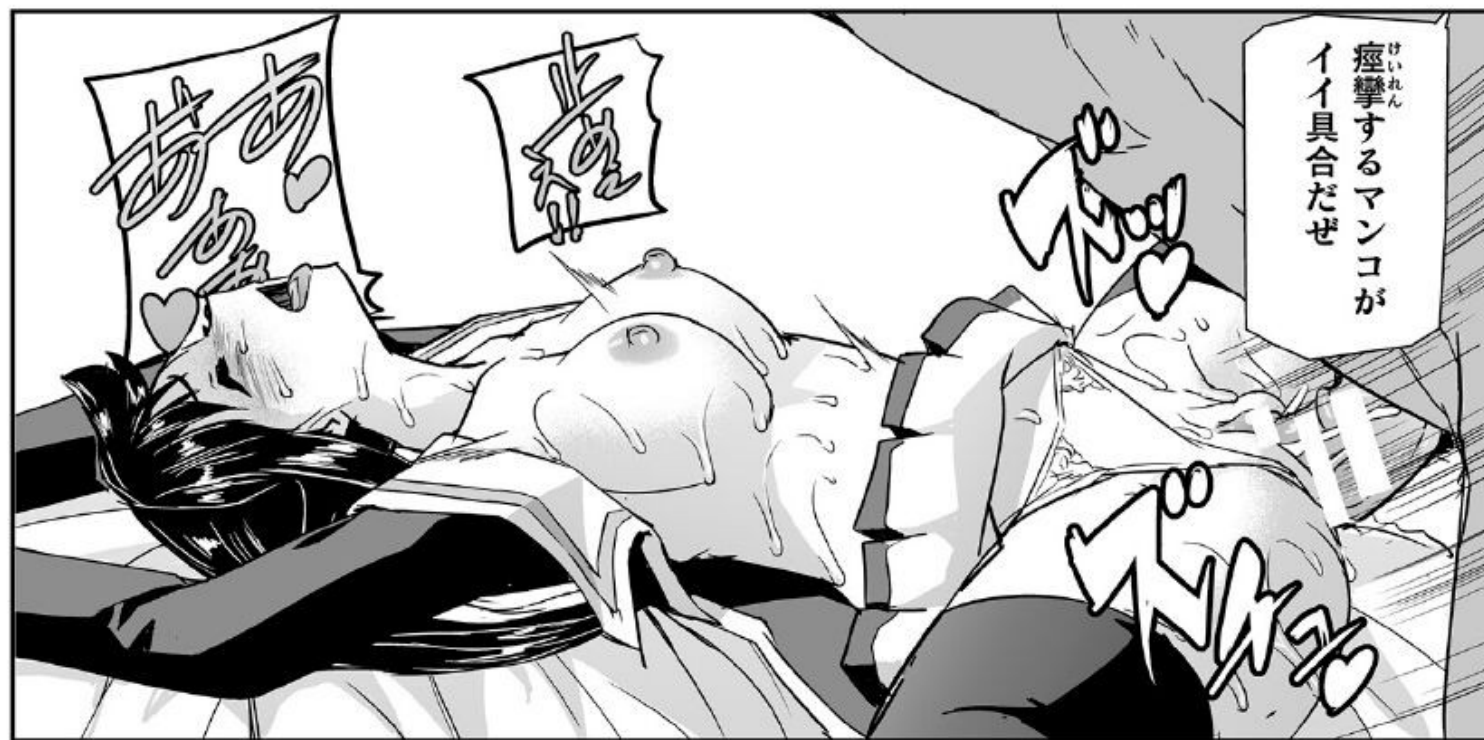
やっぱお前は
根っからの
淫乱だぜ

















…朝…か…
昨日は
酷い目に…



く!?!
やめ…!?



ようやく
目が覚めたかよ



そんな事
言っていない!



昨日はあんなに
「チンポが好きだ」
って言ったのに
つれないじゃねーか





お尻とオマンコ
幸せで
いっっちゃうう ♡

お尻とオマンコ
いっっちゃうう ♡



イッっちゃうう ♡

いっっちゃうう ♡

おまんこ ♡



さてまた浣腸
SEXといか

あんなの
繰り返されたら
オカシクなっ
てしまふ……

ゼッ!!



お…お願い
それだけは
やめて…

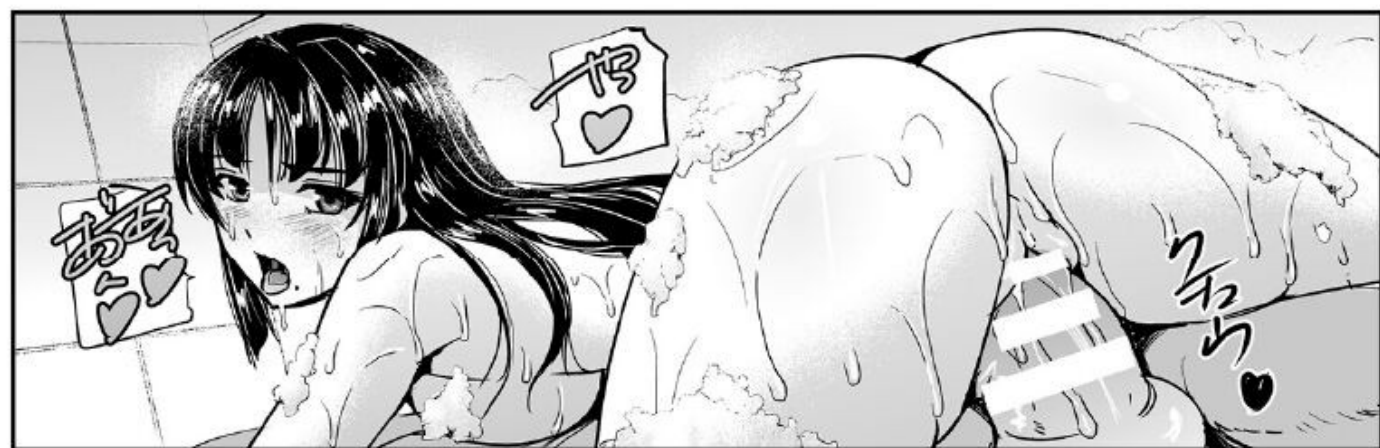
言う事を聞いてやっても
いいがよ条件がある



俺様のセフレに
なれよ

まずは手始めに
俺のチンポを
舐めるんだ







また男を悦ばせる
様々な方法を教えられ
実践させられた



私の身体のアラゆる
部位の感度は上がり
敏感になっていった

更に魔薬や
ホルモン剤等の投与と
パイプやビーズなどの
道具を使った
「開発」によって…



筋肉はすっかり落ち
胸と腰回りが大きくなった
女の身体に……

そして三週間も経つと
自分でも分かるくらい
身体つきが変わってしまった

ガイと
さくら…？

なんであの二人が
連れだって歩いて
るんだ

おいさくらの
アノ格好
完全に痴女じゃね

間違はなくガイと
犯りまくってたな

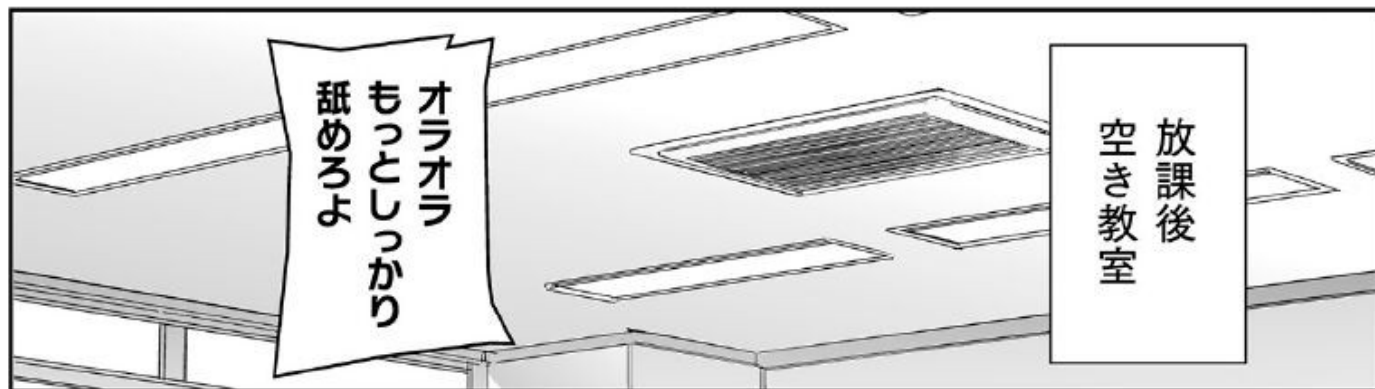
一体どうしたの？

…さくら！

ユサ♡

ユサ♡









すげえ挿入れた
だけでイったぜ

とんだ
淫乱だな

ああ嫌あ
そんなんじゃない

ガイさんの
マラにメロメロ
じゃねーか

オラオラ
三日ぶりのチンポだ
嬉しくて堪らないだろ？

あああ！こんな大勢の前で
SEXしちゃってるっつ！！



自分で腰まで動かして
とんだ淫乱だな

嫌あ！
撮らないで

撮られてるう
撮られちゃってるうー！

れも腰が勝手にい
止まらない
止まらないのぉ！

凄えエロ女だな
俺また勃って
きちまった

おう二発も
出したのによ
俺もだ

おもしろ
面白え
このまま舎弟どもの
マラも啜えろさくら

ああ…そんな…

好物だろ？
啜えろよ！



REC



囚われた美少女捜査官
神代さくら
THE COMIC

神代さくら

囚われた美少女捜査官

THE COMIC

if ショートストーリー④

著:筑摩十幸



昼休み、さくらは校舎の屋上に呼び出されていた。待ち構えていたのはガイとその取り巻きの不良少女たちである。

「約束は守っているんだろうね」

「ちゃんとガイ様にお披露目するんだよ」

「うう……わ、わかったわ……」

屈辱に美貌を歪めながら、さくらは屋上の床に腰を降ろしたまま、立て膝を拡げていく。太腿の内側の白い肌が陽光を眩しく反射する。羞恥にしっかりと汗ばむデルタに張り付いているのはシンプルな白のパンティだ。

「次はオッパイだよ」

「うう……っ」

制服の裾をまくり上げると、形の良い縦長のお臍に続いて、ノーブラの初々しい乳

房が露わになった。まだ青い芯を残す少女らしい乳房は、重力に負けない砲弾型の美形を保っている。

「裸は見慣れているが真っ昼間にこういう場所で見るともいいもんだぜ」

好色そうな歯並びを見せつけてニヤリと嗤う黒人少年。

「うう……そんなに……見るな……くうっ」

カアツと耳まで頬が紅く灼ける。昼休みの校庭から生徒たちの声が聞こえてくるたび、ドキツと心臓が跳ねた。

「恥ずかしいのはまだ早いんだよ」

「学園のアイドル、かみしろ神代さくらちゃんのストリップショーの続きだよ」

スマホのカメラを構えた色黒のギャルた

ちが意地悪く命令した。

「くう……っ」

舌を噛み切りたくなる恥辱に震えながらも、指に引っ掛けてパンティをずり降ろしていく。

「ヒューツ。いいぞさくら。もっと脱げ」

ガイの軽薄な煽りが屈辱を駆り立てる。

「ハア……ハア……だ、黙りなさいよ」

小さな布はクルクルと丸まりながら、健康的な太腿からふくらはぎへと見事な脚線を滑っていく。スウツと股間を通り抜ける風に、いやでも惨めな己の姿を自覚させられた。

「ほら、ガイ様に広げて見せるんだよお」

「くう……恥ずかしい……ううっ」

血が出るほど唇を噛みながら、抜き取っ

た下着を両手であやとりのように広げていく。

「へへへ、さくらのパンティ。エロいけどちよいと汚れているみたいだぜ」

秘部に密着していたクロッチ部分には、薄黄色い縦長の染みが広がっていた。

「ガイ様に説明するんだよ」

「うう……み、三日間……ずっと穿き続けた……汚^オパンティです……くうう……シャワーの時も……オシッコの後も……ふ、拭いてません……あううっ」

頭がおかしくなりそうな羞恥に歯噛みしながら、教え込まれた台詞を絞り出す。

（今はガマンよ、さくらー！）

行方不明の母の手掛かりをつかむために、今は堪えるしかないのだ。

「三日間穿きっぱなしだって。メツチャ臭^{にお}いそうじゃん。キツツイわあ」

「オシッコもマン汁も染みついているのね。そりゃクサイわ。キャハハ」

パシャ！ パシャ！ パシャ！

罵声と同時にカメラのフラッシュが浴びせられる。染みの部分はドロリと糊状に糸を引き、牝臭を放っていた。

（ああ……恥ずかしすぎて……頭が変になりそう……）

網膜を焦がすフラッシュの閃光に、脳の血管や神経が灼き切れてしまいそうだ。

「もっと恥ずかしくしてやるよ。三日間洗ってないエロ汚^オマンコのお披露目でえす」

意地悪そうな黒ギャルが釣り糸の付いたクリップを左右の陰唇に噛ませた。

「きゃうっつ！」

鋭い痛みには仰け反るさくら。その間にも糸を引っ張られ、少女の初々しい花卉が開かれていく。ピチツと音がして濡れたサーモンピンクの粘膜が露わにされた。

「うあああ……そんなに……ひ、引っ張らないで……撮らないで……ひあああっ」

パシャッ！ パシャッ！ パシャッ！

無慈悲なフラッシュが女の奥底まで暴き出す。羞恥と痛みが混ざり合い、灼熱の炎となって理性を狂わせようとする。

「クリちゃんもビラビラも大きくなってるじゃん。汚マンコエロすぎい」

「ガイ様に鍛えられて、熟れてきたんじゃないの？ よかったわねえ、さくらちゃん。ギャハハハ」

「ううう……」

ギャルたちの言うとおり、無尽蔵の精力を誇るガイに毎晩朝方近くまで犯され、溢れる程の子種汁を注ぎ込まれて、さくらの秘肉は急速に女として開花させられていた。小陰唇は赤みと厚みを増し、陰核も包皮を剥いてピンと尖り立っている。

膣肉だけでなくもともと控えめだった乳房も一回りは大きくなり、お尻や太腿の肉付きも目に見えて良くなっていた。

ほんの少し前まで処女だったとは思えないほどの成長ぶりである。

「グへへ、良い眺めだぜ。オッ？ マンコに何か入ってるじゃねえか」

さくらの蜜孔から白い紐が垂れ下がっているのを、ガイがめざとく見つけた。

「ガイ様に説明するんだよお」

陰唇を噛むクリップをギリギリと引っ張って、ギャルが迫ってくる。

「うぐうつ！ こ、これは……タ、タンポんです……うう……毎日、五回……オ、オナニーして……汚マンコのくっさいお汁を……たっぷり吸わせています……」

年頃の少女にとって口にするのもおぞましい台詞を言わされて、少女の矜持は引き裂かれる。同性の視線や罵声は、男たちとは別種の猛毒を含んでおり、さくらを苦しめるのだ。

「ハアハア……こんなことさせて……な、何が面白いのよッ」

「アンタの汚ないパンツをブルセラショッ
プで売ってあげようと思ってね」

「汚れているほど悦ぶ変態がいてね。マン汁タンポンも高い値段で買ってくれるんだってさ。キャハハッ」

「な……なんですって……!？」

黒ギャルたちの言葉にクラクラと目眩めまいを感じる。恥辱と汚辱の染み込んだ惨めすぎる下着を見ず知らずの変態男に買われてしまうなんて……。

「売るなんて……死んでもいやよッ」

「はあ？ ガイ様のお気に入りだからって調子に乗ってんじゃねえよ」

「落ち着けお前ら。コイツを使ってみろ」
いきり立つ不良少女にガイが黒い棒のよ
うなモノを渡す。

「そいつはさくらの刀の『鞘』を改造したモノだ。おもしろいオモチャだろ」

「くっ……父さんの形見を……よくもッ」

怒りで腸が煮え繰りかえり、黒髪が逆立
つほどだ。

「くやしい？ でも、さくらちゃんはこれ
からソレでヨガリくるっちゃうんだよね」

「アンタが大好きな魔薬もたっぷり塗って
あるんだよ。ウフフ」

淫具に改造された先端がアヌスに押し当
てられた。ヌメ光っているのは魔薬クリー
ムを塗られているからだろう。

「ああ……やめて……うあああつ！」

「ほらほら、ぶち込んで欲しいんでしょ、
アナルマゾのさくらちゃん？ ウフフ」

「はあはあ……あああ……それを使うなん
て、卑怯よ……ああむっ！」

浅く挟られる肛門粘膜がカアツと灼熱す

る。何度も浣腸による魔薬調教を受けた媚
肛は性器に勝るとも劣らない鋭敏な快楽器
官と化していたのだ。

「うう……ほ、欲しくなんか……あああ……
……ない……うああんッ」

口では否定するものの、ツンツンと菊門
を鞘で突かれるたび、妖しい感覚がジワジ
ワと広がってくる。魔薬を染み込まされる
肛門粘膜がジンジンと疼いて、そこに何か
を入れて欲しくなくなる。

（ダ、ダメ……そんなこと……考えちゃ……
……駄目なのに……っ）

必死に理性を総動員して悪魔の誘惑に抗
うさくら。しかし魔薬によって脳や肉体の
奥深くに刷り込まれた快楽絶頂の記憶は、
今も生々しく蠢動している。

「グフフ。そろそろだなあ」

「ハアハア……あ、あ……あああッ!?」

ドクンッ！ ドクンッ！ ドクンッ！

突如全身が炎に包まれ、辺りの景色がグニヤリと歪む。それは魔薬の禁断症状だ。

（ああ……こんなことって……）

魔薬浣腸をされ、アヌスに太い蛇をぶち込まれ、そのままガイの巨根に媚肉を貫かれるという二穴責めで、数え切れないほど極めてしまった。その気も狂わんばかりの連続絶頂の記憶がフラッシュバックする。それが魔薬への渴望と相まって、さくらを内側から蝕むのだ。

「グフフ、やっぱり欲しいんだろ、さくら。尻の穴がヒクヒクしてるぜ、へへへ」

「ンああ……ち、ちがう……ああ……ちが

う……はあ、あああん」

ガイに囁かれただけでドキッと胸がときめき、肛門はヒクヒクと責め具を食い締めようとしてしまう。蜜孔もジュワツと愛液をさらに湧かせて、タンポンに染み込ませてしまうのだ。

「お薬が欲しいんだろ、ほらほら」

浅く挿入した鞘の先端をクルクルと回転させ、焦燥の炎に油を注いでくる。

「うああ、だめえ……ンあああッ」

焦れつたさに思わず双臀が前にせり出し、淫具を深くくわえ込んでしまった。

「あひいひひひひッ！」

それだけでも十分すぎる刺激が脳幹を走り抜け、禁断症状を抑えきれなくなる。

「アハハ、親の形見をお尻でくわえ込みや

がったわ。ほおら、もっと奥までくわえるんだよ」

「うああ、こんなことしたくないのに……はあああんっ」

ズブズブ、ズブウ~~~~ッ！

魔薬への渴望に取り憑かれた菊門は柔軟に拡がり、独立した腔腸動物のように責め具を受け入れてしまう。

「あっ、ああっ……い、いや……こんなことさせないで……ンああ~~~~ッ！」

「自分から腰を振ってオナってるくせに、何を言ってるんだか」

事実、黒ギヤルは鞘を支えているだけで、排泄孔を責め立てているのはさくら自身なのだ。

「はあっ……はあっ……あああ……こんな

のいや、いやあ……あああむ」

魔薬の禁断症状は強力で、自分で自分を止められない。媚肛が捲り返りながら黒い鞘を呑み込み、浅ましい腸液をジクジクと滲ませてしまう。淫熱は媚肉も伝わって本気汁をタンポンに吸わせてしまうのだ。

「うふふ、コイツは高く売れそう。ほら、カメラに向かってもっと笑えよ、こう言いながらね」

ヴィイインッ！ ヴィイインッ！ ヴィイインッ！

「アア、アアアア~~~~ッ！」

うねるように振動を開始する責め具。直腸から脳天まで突き抜ける快美の稲妻が、心と身体を真つ二つに引き裂いていく。

「うああ……さくらの……三日間穿きっぱ

なしで、匂いの染み込んだ……く、臭い汚
パンティを……買ってください……マン汁
タンポンもおつけしますう」

「はあああッ……も、もう……だめ……あ
ああああ~~~~~ッ!!」

壊れた笑みを浮かべながらギクンツと腰
が反り返る。被虐の頂点へと一気に登り詰
め、ガクガクと腰が跳ね踊り、乳房もタプ
タプと揺れ弾んだ。

「はあ……はあ……ああ……ううう」

「アハハ、もうイっちゃったよ」

「フフン、休んでんじゃないよ」

休息など与えられるはずもなく、黒い鞘
が一層深く衝き入れられる。

「あ、あううつ……そんな……」

「ガイ様のためにいっぱい稼いでもらうか

らね。これからは援交してもらおうよ」

パシャ！ パシャ！ パシャッ！

フラッシュが瞬き、『パパ募集中』などの
淫靡な落書きが太腿に描き足されていく。

「あ、ああ……いや……ンあ、あああッ……
…アアンツ！」

おぞましい未来を告げられながらも、再
び腰がうねり出すのを止められない。一度
魔薬の魔味を知ってしまった身体は地獄か
ら逃れられないのか。さくらは絶望的で破
滅的な快楽に吞み込まれていった。

END



二次元ドリームコミックス

囚われた美少女捜査官 神代さくら THE COMIC

【第4話】

漫画
助三郎

原作
筑摩十幸

キャラクター原案
孤裡精

装丁
マイクロハウス
編集
キルタイムコミュニケーション
発行
株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル1F

●編集部 TEL.03-3551-6147 / FAX.03-3551-6146

●販売部 TEL.03-3555-3431 / FAX.03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©SUKESABURO ©Jukou Tikuma 2022

<https://ktcom.jp/>

【本作品のご意見、ご感想をお待ちしております】

本作品のご意見、ご感想、読んでみたいお話、シチュエーションなど
どしどしお書きください！ 読者の皆様の声を参考にさせていただきたいと思います。
手紙・ハガキの場合は裏面に作品タイトルを明記の上、お寄せください。

◎アンケートフォーム◎

<https://ktcom.jp/goiken/>



◎手紙・ハガキの宛先◎

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル

(株) キルタイムコミュニケーション 二次元ドリームコミックス感想係



神代さくら

かみしろ

囚われた 美少女捜査官

筑摩十幸
挿絵◎孤裡精

リアルドリーム文庫

「絶対に……屈したり
なんかしないわ!」
親の仇が潜む学園へ
潜入した美少女捜査官を
魔薬調教の毘が待ち受ける!

原作
小説

書籍版・電子書籍版
好評発売中!

KTC 編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコウビル TEL:03-3555-3431(販売) FAX:03-3551-1208

最新情報は

▶ オフィシャルサイトへ

キルタイムコミュニケーション

検索